

# 令和芳野の授業風景

現代は日々進化していく時代です。「昭和の常識は令和の非常識」という言葉も聞かれるように、時代とともに**価値観**や**文化**、求められる学力—今は「**資質能力**」と呼んでいます—も**変化**してきました。科学技術の発展とともに、文房具でさえ**進化**していることは周知の事実です。

既に保護者の皆様にとりましても見慣れた光景になってきていますが、今回は、今学期に実際に見ることできた「令和芳野」の授業光景を「昭和・平成芳野」との比較を交えながら紹介します。

## 「 $80 \div 30 = 2$ あまり2？」計算の仕方を図も使って喧々諤々



4年生の教室で子どもたちが  $80 \div 30$  を考えていました。「 $80 \div 30 = 2$ あまり2」なのか「2あまり20」なのか、**話し合っている**のです。しかも、式だけではなく**図**を描いて考えています。式という記号を図にも表して**視覚化**しているのです。そして、互いに相手を**納得**させようとしていました。

昭和や平成であれば、多くの場合、先生が計算の仕方を教え込み、子どもたちはひたすら練習するという授業でした。それに対し、現代の学校では**課題発見力**や**協働**する力の育成を目指しています。協働して解決する**過程**と対話による知識の**創造**、**獲得**を重視しています。

この日の子どもたちは教え込まれるのではなく、**知的好奇心**を抱きながら**学び取っていた**のでした。

## 芳野小で河内小の子どもたちとオンラインで話し合い



今月末、5年生の子どもたちは河内小の5年生の子どもたちと合同で集団宿泊教室に参加します。先日、その際に編成する生活班や活動班について、教室や多目的ホールなどで**事前話し合い**をしていました。もちろん、河内小の子どもたちは河内小にいます。子どもたちは**オンライン**で話し合っているのです。

昭和や平成ならば、どちらかの子どもたちが**相手校**へ出向いたり、代表の子ども同士が**電話**で話し合ったりしていました。すっかり市民に浸透したオンライン会議は、小学生も例外ではなくなっています。しかも戸惑うことなく**タブレット端末**を操作し、**自然体**で話しています。

平成末期でさえ**遠い未来**に思えた教育現場の光景が、今では**普通**の光景になっているのです。



本校ホームページ「**本校の教育**」の部屋の「**芳野『まごころ』アルバム**」では、子どもたちの学校生活について紹介しています。基本的には、**校舎階段**の掲示コーナーの掲示物の掲載です。左記の**二次元コード**を読み取ればアクセスできます。なお、一部の写真は**画質**を低くしたり**加工**したりして、個人の顔が**判断不可能**にしています。

【御礼】九月八日の「ママ親子愛校活動「サンデーグリーンタイム」」に多数ご参加いただきましてありがとうございます。皆様の「『ことば』の心」に感謝いたします。